

保健所の「コロナ戦記」TOKYO2020-2021

関なおみ 東京都 特別区保健所 保健予防課長



【目次】

はじめに——ミッション・インポッシブル（もしくは、闘う公衆衛生医師）——
プロローグ 1月23日深夜から東京は戦争状態に突入した
第1章 第1波 2020年1月から6月まで
第2章 第2波 7月から11月まで
第3章 第3波 12月から2021年3月まで
第4章 第4波・第5波 4月から現在
最終章 残された課題
巻末特別対談
「病院から見たコロナ、保健所から見たコロナ」
大曲貴夫（国立国際医療研究センター病院）×関なおみ
あとがき——叶えられた祈り——

「保健所って、そもそも何が大変なんですか？」

人手不足にまつわるエトセトラ／あなたは検査の対象ではありません／病院が見つかりません！／宿泊療養始めます／おまえの区では何人患者が出てるんだ！／何を根拠に？／「夜の街」って何だ／COCOAなんて大嫌い／インフルエンザとの同時流行を踏まえた対応／住民接種、本当にやるんですか？／言葉が通じません……／どうか課長を眠らせてあげてください……／縮小ではありません！／嘘をついたら30万円、病院から逃げたら50万円／そして誰もいなくなった／天国に違いない／開催までの短距離走／最後の聖戦／トンネルの向こう側…etc.

2020年1月23日深夜から、東京は戦争状態に突入した。

そしてその2020年から'21年にかけて、保健所と東京都庁の感染症対策部門の課長として新型コロナ対策の第一線に立ち、指揮を執り続けた公衆衛生医師がいた。

ミッションはただ一つ、つぶれないこと。戦場にたとえていうならば、とにかく生き延びることである。

本書は、メモ魔・手紙魔で、日記を書かないと眠れず、読むことより書くことに依存している「活字中毒者」である公衆衛生医師が、未曾有の事態の中で経験したことを、後世に伝えるためにつぶさに記録したものである。巻末では、新型コロナ発生時から医療の最前線で闘う大曲貴夫医師（国立国際医療研究センター、東京都医療アドバイザー）との特別対談も収録。

あの夏、

我々が闘った相手は組織か、人か、ウイルスか——。

保健所・都庁で COVID-19 対策の最前線に立ち続けた公衆衛生医師の壮絶な記録。



光文社新書

2021年12月15日(水)発売

408ページ／定価 1,210 円(本体 1,100 円+税)

【問い合わせ先】〒112-8011 東京都文京区音羽 1-16-6 (株)光文社 新書編集部 (担当：草薙) TEL:03-5395-8289